

# 令和5年度 自己評価・学校関係者評価報告

2024.4

学校法人成城学園

認定こども園かわにしひよし

## 1、本園の教育目標

学園理念である「社会を生き抜く体力のある子ども」を標榜し、自発的な活動から生まれる体験・経験を通して培われていく子どもの自立性・主体性を育むことを目標とする

また、以下の6項目を本園での“目指すべき子ども像”として園生活の中で育んでいく

(1) 自分で考え、自分で行動する子ども (2) 人や社会に積極的に関わる子ども (3) 思いやりや優しい心を持つ子ども (4) 命を大切にする子ども (5) 自然を大切に身近に感じる子ども (6) 浪費をしないで {もったいない} の心を持つ子ども

## 2、本年度の重点的な目標・計画

- ①職員一人一人が自分の役割を理解して報告・連絡・相談できる組織作りを目指す
- ②子どもの自主性を大切にし『目指すべき子ども像』を育む保育実践力の向上を目指す
- ③園庭の環境整備や遊びの充実
- ④備品物品の点検管理
- ⑤地域交流の実施

## 3. 評価項目の達成及び取り組み状況 (令和5年度の振り返り)

かわにしひよし		
	課 題	具体的な取り組み方法
1	①職員一人一人が自分の役割を理解して報告・連絡・相談できる組織作りを目指す	幼児・乳児リーダーを中心とした会議は、月1回程度実施し保育の在り方や行事の持ち方などについて意見交換することは定着してきた。今年度はさらに理事長の発案でクラスリーダーを招集し『かるがも会議』としてミドルリーダー育成に努めた。 リーダーの自覚を持ちつつあるが、他の保育者への指示や決定事項の周知徹底は未だ不十分である。 現任の主幹保育教諭が定年（令和6年4月）を迎えるため、次期主幹保育教諭を任命し引継ぎを進めている。 今後は新しい主幹保育教諭を中心に各リーダーが求められる役割を理解して「報告・連絡・相談」のできる風通しの良い組織になるように取り組んでいきたい。
	【評価】	協働できる組織を目指して『かるがも会議』に参加するリーダーを対象に理事長から園内統治の在り方や意識の持ち方を学び取り組んでいるが成果が十分でない。 主幹保育教諭や幼児・乳児リーダーは会議を企画招集し、保育の在り方や行事の持ち方を協議・検討することは定着している。事前に協議・検討事項を周知して他職員の意見をまとめることもできつつある。 しかし、会議で意思決定した内容と決定経緯を周知することについての責任や説明力の不足が課題である。

	<p>今後も保育理念や保育目標に向かって園長の意図を理解し職員集団をまとめるリーダーの育成に力を入れる必要がある。</p>	
<p>2</p>	<p>子どもの自主性を大切に『目指すべき子ども像』を育む保育実践力の向上を目指す</p>	<p>園内研修の実施により、保育者の実践力向上に取り組んでいる。</p> <p>全クラスを対象にした子どもの発達と指導計画に関する研修（理事長）、幼児クラスを対象にした保育実践研修（大阪教育大学・中橋教授）、乳児クラス対象の保育実践研修（大阪総合保育大学・安家先生）を毎月実施した。</p> <p>幼児クラス担任は、子ども主体の保育の進め方や保育室の環境構成について助言を受け、今の子どもたちの興味関心がどこにあるのか、どんな遊びを楽しんでいるのかを意識するようになってきた。年長クラス担任は『5歳児の主体性』をテーマに日々の保育を『こども主導・保育者主導』の視点で振り返り、まとめたものを研修会で報告発表した。</p> <p>乳児クラス担任は、日常の保育をビデオ撮影し、録画を見て自分の（保育者の）立ち位置や子どもへの関わり・言葉がけを振り返ったり、担任間で『どうすればよかったか』を話し合ってきた。その時の子どもの気持ちに気付いたり、保育者間で同じ場面を見て共通認識することの大切さを学んだ。</p> <p>昨年度より向上しつつあるが課題が残るので、引き続き取り組んでいく。</p>
<p><b>【評価】</b></p> <p>昨年度より引き続き園内研修に取り組み、保育者一人一人の実践力は少しずつ向上しつつある。</p> <p>5歳児担任は『5歳児の主体性』をテーマに、日々の保育を『こども主導・保育者主導』の視点で振り返り研修会で発表したことは学びと自信に繋がった。</p> <p>乳児クラス担任もビデオ録画を見て職員間で話し合い、共通認識をもって保育することが出来た。</p> <p>新任職員もわらべうた研修で玩具を手作りしたことや子どもの前で実践を繰り返したことは自信になった。</p>		
<p>3</p>	<p>園庭の環境整備や遊びの充実</p>	<p>木材やタイヤを並べて道にしたり、組み立てて家を作ったり、シーソーを作ったりと工夫して遊んでいる。竹馬・ボール・縄跳び・フープなどの道具も使うようになった。</p> <p>梅雨時にはレインコートを着て散策したり、雨上りの大きな水溜まりで遊んだりとその時ならではの遊びを楽しむことも出来た。</p> <p>木工遊びボランティアに見守って頂き、年長児は釘打ち体験を3回実施した。</p> <p>年長児の遊びをモデルにして年中児が同じ遊びをしたり、年中児をモデルに年少児が遊び始めたりと遊びが繋がりが広がっている。</p> <p>今後は保育者が月替わり遊びコーナーを設ける等、更に遊びが広がるようにしていきたい。</p>
<p><b>【評価】</b></p> <p>子ども達の園庭での遊びは、木材を並べたり組み立てたり、タイヤを積み重ねて中に入ったり、穴を掘ってみたり、水たまりに入ったりと様々な遊ぶ姿があり、遊びが繋がりが広がり充実しつつある。</p> <p>今後は遊び環境リーダー保育者が週替わりや月替わりで木工やシャボン玉、石鹼粘土などのコーナーを開いて新たな遊びを体験できるようにしていきたい。</p> <p>また、塩ビパイプや石などの素材を増やして遊びの工夫ができるようにしていきたい。</p>		

4	備品物品の点検管理	<p>園長と主幹引継ぎ者を中心に倉庫の清掃・物品点検を行った。竣工・開園時に使用したと思われる物が奥まった場所から出てくるなど永年に亘って管理が不十分であった。</p> <p>教材や行事用の物が混在しているので目的別に場所を決めて保管するようにした。</p> <p>予備の机や椅子もあちらこちらの倉庫に置かれていたのを数量・高さ・奥行・座面までの高さなどを計測した。</p> <p>写真を撮って置き場所を掲示したり記録したりして維持できるようにしていくとともに必要な時に使えるように管理していきたい。</p>
	【評価】	<p>各倉庫の清掃を行い、目的別に収納するように改善し、机やイスなどの備品も数やサイズを測って種類分けをして収納したので概ね達成できている。</p> <p>この状態が続くように管理者を決めて取り組んでいきたい。</p>
5	地域交流の実施	<p>地域内の保育所・こども園（公民）と4～5歳児交流を行った。其々の園を訪問して園庭での遊びを教え合いながら交流を楽しんだ。</p> <p>公立保育所・こども園の職員とは環境評価スケールの使い方などの意見交換を行うことができた。また、小学校1年生の授業を参観したり、教職員と情報や意見を交換する機会を持つことが出来た。</p> <p>川西小学校校長を招いて『小学校入学に向けて』のテーマで5歳児保護者対象に講演をしてもらった。</p> <p>今年度は園所・学校と交流を深めることが出来た。</p>
	【評価】	<p>近隣園や小学校との接続・連携はかなり進んだ。公立園・所・学校教職員との意見交換も定期的に行えるようになった。次年度も継続していきたい。</p> <p>地域の高齢者やボランティアとの交流は、取組みが不十分でまだ出来ていないので積極的に関わっていくことが次の課題である。</p>

#### 4、今後取り組むべき課題

	課題	具体的な取り組み方法
①	組織作り	<p>主幹保育教諭・乳幼児リーダーを新たに任命し、研修等の学びを深めながらミドルリーダーの自覚を促し、園運営や人材育成に取り組む。</p> <p>乳児会議・幼児会議を定例化し、クラスリーダーとミドルリーダーとが話し合い共通の認識をもって取り組めるようにする。</p> <p>又、報告・連絡・相談を原則として位置づけることを徹底していく。</p>
②	保育実践力の向上	<p>引き続き研修での学びを深めていく。また、月案・週日案の指導計画を立案する段階で主幹保育教諭が関わり、子どもの主体性を支える保育が展開されるように共に考えて進めていく。</p>
③	園庭環境・遊びの充実	<p>毎月のリーダー会議で子どもの興味関心に基づき、又、園庭の環境（建物の構造的な特徴及び植栽の特徴・虫の生態など）に合わせた整備、子どもの遊びの充実についてを議題にし検討を進めていく。</p>
④	備品・物品管理を行い共有化する	<p>備品・物品（机・椅子・楽器など）ごとに管理場所と管理者を決めて一覧表を作成し、点検・修理を行っていく。尚、管理者は会議で点検状況を報告するように取り組む。</p>
⑤	地域交流	<p>高齢者施設・地域ボランティアとの交流や桜ヶ丘公園の清掃活動など地域活動を積極的に行う。</p>

## 5、学校関係者評価

	項目	具体的内容
1	組織づくり	主幹保育教諭、各リーダーがそれぞれの役割を遂行することに努力されていることが伺えます。新規採用された先生への指導成果、知識の継承に配慮が行われればよいと思います。
2	保育実践力の向上	保育教諭一人一人の実践への誠実な取り組みが見られます、振り返りを活かし、主幹教諭等と協議しながら次の実践に生かしていることされており今後も継続して実施していただきたいと考えます。 厳しい園内ルールを園児に強制することなく、園児の自主性や創造性を発揮しているように思います。それは保育実践力が着実に保育者に修得されている証だと思います
3	園庭環境整備・遊びの充実	熱中症対策・安全配慮もされており、園全体でしっかりと取り組まれていると思います。保育者が遊びコーナーを設けるなど、新しい遊びを誘発する仕掛けを考えてはいかがでしょうか？ 釘打ちのように生活と密接な技術を安全面に気を付けながら、今後も継続されることに期待します
4	備品物品の点検管理	整理されたことで、保育環境への活用が広がることを期待します
5	地域交流の実施	「小学校に向けて」の講演会は、毎とし実施してはいかがでしょうか？地域の高齢者の方とは積極的に関わっていただきたいと願います。高齢者の方から、「川西の歴史」などを学ぶのもよいのではないのでしょうか？

## 6、財務評価

財務状況は順調と言えるが処遇改善の推進と人材充実を進めていくことで人件費比率が上昇することが予測される。

また0歳児が育児休業取得率の向上により利用が少なくなることが傾向として見られる。

これは女性就労に対して育児休業が充実しその取得率が上がっていく事は、喜ばしいことであるが収支見通しでは収入減の要素でもある。

少子化による園児減を今後の傾向として前提に置きながら以下の観点での収支バランスを配慮していく必要がある。

- ・ 2008年竣工の建物の施設設備更新のための積立を見込んだ慎重な支出計画
- ・ 人事院勧告・児童福祉業務処遇改善等的人件費増を見込んだ慎重な支出計画
- ・ 光熱水費、食材費、諸物価高騰を見込んだ支出計画